

## 巻頭言



熊本県立天草高等学校  
校長 馬場 純二

本校は令和4年度から第Ⅱ期SSHの指定を受けました。「サイエンスの宝島『天草』から世界へ」を合い言葉に、「探究的な問いの視点で地域を見つめ、科学的思考で持続可能な世界を創る科学技術人材の育成を目指す」のテーマのもと、13の学びの場面を設定し、「問いを立てる力」「情報を収集する力」「情報を分析する力」「対話する力」「創造する力」の5つの力を身に付けた科学技術人材の育成を目指しています。

第Ⅰ期5年間で、理系の進学者（特に女子の工学部進学者）がSSH導入前から約4倍に増加するなど、課題研究の推進が理工系進学者を増やし、そのことが将来の科学技術人材育成に繋がることを明らかにすることができました。また、自然科学分野に興味を持って入学してくる生徒の割合も、平成29年度の9%から30%へと3倍増になっており、天草サイエンスアカデミー等で地域に研究成果を発信し続けたことが結実し始めております。

これらの成果を基として、第Ⅱ期では、課題研究を全校展開させ、より充実させることを目指しています。その一つが、ASクラス以外の2,3年生に学校設定科目として「天草探究(AT)」加えることです。ASIで習得した探究手法を更に発展させ、天草のフィールドワークから見えてきた課題をSDGsの17のターゲットに当て込みながら解決策を探ります。またPDCAサイクルを回すことで、ルーブリックの再点検、評価と指導の一体化、生徒の課題意識の伸長等を総合的に分析、進化させることを目的としております。二つ目に、全ての教科科目で探究型授業へのシフトを図り、課題研究の手法を活用することで、各授業内で多角的な分析や、思考・判断力の向上による協働的な学びに繋がることを目指しています。これらが有機的に連携することにより、最終的にASクラスの取組への研究批評へと繋がり、全体としての課題研究力向上が図れると考えています。

更に1年時に「総合理科」を設け、理科の全てのジャンルを網羅的に学ばせることで知識・理解力を積み上げ、思考・判断力の育成に繋げるべく、單元ごとにミニ課題研究も設けることとしました。まだこれらの研究は緒に付いたばかりであり、今後の分析・検証と共に修正されていくことだと考えますが、天高版科学技術人材育成のために、今後、様々な取組が精力的に行われていくことに期待しています。

他方、科学部での研究内容を社会実装する取組が、2022「STI for SGGs」アワードでの次世代賞の再受賞に繋がりました。一昨年天草市を巻き込んで始まった「環境シンポジウム」も、毎年内容を充実させながら開催できています。このことは、SSH研究が、持続可能な社会を自治体や住民とともに創り出す拠点となる可能性を示唆しています。

研究はまだ始まったばかりです。本研究の推進あたり、文部科学省、国立研究開発法人科学技術振興機構、運営指導委員会及び熊本県教育委員会をはじめ多くの関係機関の皆様方から頂いた御指導・御支援に対し心より感謝申し上げます、発刊のあいさつといたします。